世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）
Doctoral Program in Heritage Studies

■ 博士（世界遺産学）
■ Doctor of Philosophy in Heritage Studies

人材養成目的 / Program Educational Objectives

世界の文化遺産・自然遺産の社会的・国際的役割を、地球環境と人間社会の持続可能性の達成を目的とする国際社会のアジェンダ、国際ガバナンスとの関係のもとに総合的に理解し、遺産が直面する問題の所在を政治・経済・社会・自然的要因に関連付けて分析し、その解決のための理論・技術を研究する高い能力を有する世界遺産学の研究者・大学教員、世界のトップリーダーとなる高度専門職業人を育成する。

養成する人材像	世界の文化遺産･自然遺産の保護において、世界に貢献するという明確な意思及び態度、倫理観、国際社会、特に国際機関における議論の場で通用するコミュニケーション能力・交渉力、国際社会におけるニーズを的確に把握して課題を解決する能力、世界の文化遺産・自然遺産を次世代に伝えていくことができる世界遺産学の研究者・教育者としての能力を持った人材を育成する。
修了後の進路	大学等教育機関の教員、研究者及び国や地方公共団体の職員、研究員等。文化遺産保護・国際協力分野の公的機関やコンサルタント関連企業等の職員、研究員 ほか。

世界遺産学学位プログラム（博士後期課程）　／　博士（世界遺産学）
Doctoral Program in Heritage Studies / Doctor of Philosophy in Heritage Studies

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（世界遺産学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
	6. 共通知の展開力：文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力	文化・自然遺産の保全に関する幅広い研究成果を展開し、社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	7. 専門知の創造力：文化・自然遺産に関する高度な知識を創造し活用する能力	文化・自然遺産の保全に関する専門的研究の成果を社会に役立てようとしているか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	8. 共通技能の展開力：文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力	文化・自然遺産の保全のため、研究成果を展開し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	9. 専門技能の開発力：文化・自然遺産保護の専門的課題の解決方法を見出す能力	文化・自然遺産の保全のため、専門的な解決方法を開発し、問題解決に取り組むことができるか。	世界遺産学特別研究、インターンシップ、学会発表など
	10. 国際的開発力：文化・自然遺産の保護の国際的課題に取り組む意識と意欲	文化・自然遺産の保全のため、国際社会に貢献する高い意欲と十分な語学力を身につけたか。	世界遺産学特別研究、国際インターンシップ、海外留学、海外学会発表など
学修成果の評価に関する方針	学修成果の評価は中間発表会、予備審査、本審査の各段階において実施する「博士論文評価」に基づき、以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。 学修成果の評価は「博士論文採点表」に基づく複数回にわたる段階的な評価、以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。 第一段階（2 年次秋学期）：博士論文中間発表会において、全教員がルーブリックに基づく採点を行う。 第二段階：学位論文予備審査会において、主査・副査（3 名）がルーブリックに基づく採点を行う。 第三段階：学位論文本審査会において、主査・副査（3 名）がルーブリックに基づく採点を行い、最終達成度審査を行う。 加えて、独創的かつ国際的に通用する研究能力の修得が主たる目的であることを踏まえて、研究の独自性・専門性・発展性・国際的意義を諮るために、査読付き論文の公表（国内外）、国際学会等での研究発表の有無、これらを通じた研究の学術的価値と研究者としての成熟度を総合的に判定する。また、教育活動（TA 経験など）や共同研究、学外活動（国際プロジェクト、政策提言等）に関しても、博士後期課程にふさわしい高度な能力育成の観点から、重視されるべき評価指標とする。		

学位論文に関する評価の基準	（博士論文審査） 1. 予備審査委員会は、主査１名、副査３名以上、計４名以上の委員で構成し、主査は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。予備審査委員会は、提出論文ごとに１回以上開催し、委員全員が一致して、12ヶ月以内に申請者による学位論文の提出が可能であると判断した場合に「可」、その他の場合に「否」と判定する。 2. 論文審査委員会は、主査１名、副査３名以上、計４名以上の委員で構成し、主査は世界遺産学学位プログラムの専任教員とする。論文審査委員会は、提出論文ごとに１回以上開催し、学位論文の審査を公開で実施し、合否の判定を行う。公開審査の公表から実施までには原則として１週間以上の周知期間をおくものとする。 3. 論文審査委員会主査は、論文博士審査委員会の判定終了後、その結果を、速やかに世界遺産学学位プログラム教育会議に報告し、学位プログラムリーダーを通じて人間総合科学学術院運営委員会に報告する。 （評価基準） 1. 世界遺産学の博士論文として適切なテーマが設定されていること（問題意識・課題設定） 2. 先行研究を踏まえた論文の位置づけが明確であること（研究の位置づけ） 3. 課題にふさわしい研究方法が選択されその論拠が信頼できるものであること（研究方法、論拠の信頼性） 4. 論旨展開が十分で、全体に大きな矛盾がないこと（論文の構成） 5. 研究の実施および結果の公開において倫理的な問題がないこと（倫理） （評価項目） 1. 独創性:導入した概念や方法、発見した事実や法則のいずれかが新規であること。既知の方法の改良、異なる分野からの応用等を含むこと。 2. 萌芽性：研究の着手段階であるが、新規な発想、着想に基づく研究で今後の発展の可能性の大きなものであること。 3. 発展性：従来の定説を変え得る新事実の解明、あるいは新しい研究領域や研究体系・技術体系の開拓等の契機と成り得るものであること。 4. 有用性：技術の向上、あるいは実用上、学術上に価値のある有用な情報を提供するものであること。

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

世界遺産の保護に関する社会的・国際的ニーズに応えるため、遺産保護に関する高度な研究を行う研究者、国内外の遺産保護の現場、国際機関等で高度の学識と専門的能力をもって遺産保護に従事するプログラムオフィサーを育成するため、実践的かつ学際的な学修課程を編成する。

教育課程の編成方針	遺産保護に関する高度な研究を行う研究者、国内外の遺産保護の現場、国際機関等で高度の学識と専門的能力をもって遺産保護に従事するプログラムオフィサーを育成することを目的に、「文化遺産政策・行政」、「自然遺産・自然保護」、「遺産整備」、「観光計画」、「景観計画」、「建築遺産」、「美術遺産」、「保存科学」、「国際遺産学」の９つの領域からなる教育課程を編成する。

学修の方法 特色的な教育	– 各学年次において、専門領域の特別研究に参加し、指導教員の指導を受ける。 – 2 年次秋学期において、全教員の前で博士論文の中間発表を行い、研究に対する助言を受ける。 – 3 年次において、予備審査を経た上で、博士論文を提出し、主査 1 名、副査 3 名以上で構成される論文審査委員会により博士学位論文の審査を行う。

入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	世界遺産の評価、保存、管理と活用に広い視野と柔軟な思考をもって取り組む意欲を持ち、研究活動に適した学力と資質を備えた学生を求める。
入学者選抜方針	入学試験は、口頭試問によって行い、専門に関わる研究能力とプレゼンテーション能力を重視して、選抜を行う。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	博士後期課程では、研究者としての自立を促す支援体制を重視し、学生の研究活動を後方から支援する体制を整備している。研究計画・論文構成・投稿戦略などの個別指導に加え、各種研究資金申請（海外渡航支援、民間助成）の作成支援や研究倫理指導を行う。また、専門技術（高度な統計解析、3D 解析、AI ツール活用など）や英語アカデミックライティングのスキル支援も提供している。
学生同士の 交流機会	博士後期課程においては、学際的かつ国際的な研究ネットワーク形成を促すことを目的として、学生間の主体的な交流を支援している。異なる専門分野にて取り組む学生が相互に研究紹介や意見交換を行う合同ゼミやワークショップ、海外大学院生との共同発表機会を積極的に設けている。また、こうした活動についても学生自身がリーダーシップを発揮して運営し、自律的な研究者集団が形成されるよう支援している。
教員との交流機会	博士後期課程では、個別研究の深化に加え、複数教員による学際的・国際的視点からの継続的指導を重視している。 主指導教員のもとに副指導教員からの指導の機会を設け、特に博士論文の作成にあたっての段階的な研究進捗報告会においては広範な専門性からの指導と助言を受けられる機会としている。さらに、TF として学部教育や大学院授業の補助、学外実習における TA などを通じて、教育者としての教員の姿勢・指導技術・倫理観に直接触れ、自らの教育力と研究力、さらにはコミュニケーション能力等を育成する機会としている。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育会議において、学生の学修成果の評価結果およびコンピテンスを用いて、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。学生の研究状況は、年次ごとの進捗報告・中間審査・最終審査を通じて把握し、その達成度や課題を教員間で共有する。また、博士論文提出前の査読付き論文数・質に関する基準を定め、その達成状況を可視化している。

さらに、学位取得者の進路・研究業績の追跡調査を通じてプログラムの成果を検証し、FD 活動によって国際的教育水準に基づいた教育改善を継続的に行っている。

学生アンケートや個別ヒアリングも実施し、学生の声を教育改善に反映する体制を強化している。